

## 協伸商会穀物レポート [KKR] Vol. 027

(2020/21年度 USDA 米国農務省 10月9日発表)

【ハイライト】 ① 世界穀物需給は8月初旬まで各品目とも生産/消費/貿易量が大きく拡大し市場も平穏な状況が続いていたが、8月中旬以降米国中西部での高温乾燥やハリケーン被害による減収と中国の大豆/コーンの大量輸入報道も相まって様相が一変してきている。② その結果、シカゴ定期市場はコーン等の主要穀物価格が前月比大幅に上昇し、大豆は久方ぶりに10ドルを超え10ドル台半ばまで上昇、小麦も6ドルをうかがう状況、コーンも同様に4ドルに迫る動きを見せている。これらを8月以降の2ヵ月間上昇で見ると、大豆+151¢(117%)、コーン+72¢(123%)、小麦+77¢(116%)とおよそ2割前後の大幅上昇となっている。③ この市場動向の背景となる USDA による今月の世界主要3穀物収穫予想は別添「需給表」にある様にコーンが4百万ト減、大豆が1百万ト減と下方修正され、特に米国は前月比コーンが大幅に5百万ト減、また大豆が1百万ト減少した。④ 他方輸入で注目されるのは、中国の大豆輸入数量見通しがついに史上初めて1億トの大台に乗ったことである。この背景にあるのは、ASFで落ち込んでいた中国の豚肉生産が回復して来ていることと国内の食肉/油脂需要の底上げが要因となっている。⑤ 中国の今年1-9月大豆輸入数量は、中国税関総署によると7,453万トと前年比16%増加し、ほぼUSDAの1億トの見方を裏付けている。1億トは昨19/20穀物年度の中国大豆輸入量89百万トを11百万トと大幅に上回り、世界全体貿易量の61%を占め圧倒的な存在と言える。⑥ 近年、中国の大豆輸入先はBRAが圧倒的なシェア(約7割)を誇っていたが今年は米中「第一段階合意」を念頭に中国の米国産大豆買い付けが大幅に増加する動きとなっている。そのことを反映し、米国の大豆輸出見通しは前月比約2百万ト増/昨年比12百万ト増の約6千万ト、コーンも昨年比15百万ト増の59百万トと大きく拡大している。⑦ その結果10月以降US Gulf/PNWに向かうバラスターが増加し10/2現在116隻とされPNWでは最近船混みも報告されている。

## 1、世界穀物需給の概要 (大豆除く)

- ① 生産量：2,733百万ト (前年比2.3%増、前月比0.1%増)
- ② 消費量：2,711百万ト (前年比1.6%増、前月比0.1%増)
- ③ 貿易量：457百万ト (前年比3.7%増、前月比0.2%減)

## 2、とうもろこし

- ① 生産量：1,159百万ト (前年比3.8%増、前月比0.3%減)
- ② 消費量：1,163百万ト (前年比2.7%増、前月比±0)
- ③ 貿易量：184百万ト (前年比8.2%増、前月比0.8%増)
- ④ 概況：米国生産見通しは前月に続き今月更に9月比大幅減少(378⇒373百万ト)となったが不作の前年比4千万ト増。BRAも前年比約1千万ト増と全体では史上最高変わらず。消費量もEU/中国で増加し前年より拡大。
- ⑤ 価格は\$3.80/Bu (前年\$3.85/Bu、前月\$3.47/Bu)と前月比¢33上昇した。

## 3、小麦

- ① 生産量：773百万ト (前年比1.1%増、前月比0.3%増)
- ② 消費量：751百万ト (前年比0.3%増、前月比±0)
- ③ 貿易量：190百万ト (前年比0.9%減、前月比0.3%増)
- ④ 概況：世界生産量はUKR/CANで前月比減産となったがRUSの大幅増産(78⇒83百万ト)等により史上最高見通し。消費量も中国が増加することもありこちらも史上最高見通し。貿易量は前月より百万ト増。
- ⑤ 価格は\$5.73/Bu (前年\$4.91/Bu、前月\$5.40/Bu)と前月比¢33上昇した。

## 4、大豆

- ① 生産量：368百万ト (前年比9.5%増、前月比0.3%減)
- ② 消費量：371百万ト (前年比4.6%増、前月比0.4%増)
- ③ 貿易量：168百万ト (前年比2.0%増、前月比0.9%増)
- ④ 概況：米国生産量はハリケーン等により前月比百万ト減となったが前年比19百万トの大幅増(97⇒116)、BRAが前年比8百万ト(125⇒133)増の見通しであり全体では前年比10%近い増産となる見通しである。消費量は中国輸入見通しが1億トと前年89百万トから大幅に拡大し、世界貿易量もこれに連動し16百万ト(152⇒168)程度増加する見通しである。
- ⑤ 価格は\$10.21/Bu (前年\$9.16/Bu、前月\$9.70/Bu)と前月比¢51上昇。

# 世界の穀物・大豆等の需給

2020年10月9日  
米国農務省発表： 単位100万トン

主要穀物世界の需給								
		生産量	総供給量	貿易量	総使用量	期末在庫量		
全穀物	2018/19	2,625	3,448	429	2,640	807		
	2019/20	2,671	3,478	441	2,670	809		
	2020/21	9月	2,730	3,549	458	2,708	841	
		10月	2,733	3,542	457	2,711	831	
小麦	2018/19	731	1,019	174	735	284		
	2019/20	764	1,048	192	749	299		
	2020/21	9月	770	1,070	189	751	319	
		10月	773	1,072	190	751	321	
粗粒穀物 (とうもろこし等) 注1	2018/19	1,398	1,768	212	1,421	347		
	2019/20	1,411	1,758	207	1,425	332		
	2020/21	9月	1,460	1,798	224	1,461	337	
		10月	1,459	1,791	223	1,461	331	
大豆	2018/19	361	460	148	347	113		
	2019/20	337	450	165	356	94		
	2020/21	9月	370	466	166	369	97	
		10月	368	462	168	371	92	

世界のとうもろこし需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	9月	309.15	1,162.38	179.34	1,164.74	186.03	306.79
	10月	304.24	1,158.82	177.81	1,162.60	184.47	300.45
アメリカ	9月	57.23	378.47	0.64	313.70	59.06	63.57
	10月	50.68	373.95	0.64	311.16	59.06	55.04
アルゼンチン	9月	1.87	50.00	0.01	15.00	34.00	2.88
	10月	1.87	50.00	0.01	15.00	34.00	2.88
ブラジル	9月	5.49	110.00	1.50	70.00	39.00	7.99
	10月	5.49	110.00	1.50	70.00	39.00	7.99
EU	9月	7.23	66.30	25.00	88.50	2.70	7.33
	10月	7.17	66.10	24.00	87.00	2.50	7.77
日本	9月	1.44	0.00	16.00	16.00	0.00	1.45
	10月	1.40	0.00	16.00	16.05	0.00	1.35
中国	9月	201.07	260.00	7.00	279.00	0.02	189.05
	10月	200.92	260.00	7.00	279.00	0.02	188.90
ウクライナ、 ロシア	9月	1.85	53.50	0.06	16.50	36.40	2.50
	10月	2.05	51.50	0.06	17.10	34.40	2.10

世界の大豆需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	9月	96.01	369.74	163.25	369.07	166.34	93.59
	10月	93.75	368.47	164.95	370.59	167.88	88.70
アメリカ	9月	15.64	117.38	0.41	63.07	57.83	12.52
	10月	14.25	116.15	0.41	63.03	59.87	7.90
アルゼンチン	9月	26.40	53.50	4.00	49.20	7.50	27.20
	10月	26.40	53.50	4.00	49.20	7.00	27.70
ブラジル	9月	19.43	133.00	0.40	48.15	85.00	19.68
	10月	20.34	133.00	0.40	48.14	85.00	20.60
中国	9月	27.26	17.50	99.00	116.40	0.10	27.26
	10月	25.66	17.50	100.00	117.40	0.10	25.66
EU	9月	1.96	2.80	14.90	17.63	0.25	1.79
	10月	1.71	2.75	14.90	17.61	0.25	1.50

世界の小麦需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	9月	299.78	770.49	185.29	750.90	189.44	319.37
	10月	299.40	773.08	186.23	751.03	189.92	321.45
アメリカ	9月	28.41	50.01	3.54	30.24	26.54	25.19
	10月	27.98	49.69	3.40	30.51	26.54	24.03
アルゼンチン	9月	1.69	19.50	0.01	6.05	13.50	1.64
	10月	1.70	19.00	0.01	6.05	13.00	1.66
オーストラリア	9月	3.49	28.50	0.20	7.50	19.00	5.69
	10月	3.49	28.50	0.20	7.50	19.00	5.69
カナダ	9月	5.03	36.00	0.45	10.00	25.00	6.48
	10月	5.03	35.00	0.45	9.70	25.00	5.78
EU	9月	14.83	136.15	5.50	117.30	25.50	13.68
	10月	14.83	136.75	5.50	117.50	25.50	14.08
中国	9月	151.68	136.00	7.00	130.00	1.00	163.68
	10月	151.68	136.00	7.50	130.00	1.00	164.18
インド	9月	23.99	107.59	0.03	99.50	1.00	31.11
	10月	23.99	107.59	0.03	99.50	1.00	31.11
ロシア	9月	7.48	78.00	0.50	40.50	37.50	7.98
	10月	7.23	83.00	0.50	41.00	39.00	10.73
ウクライナ	9月	1.15	27.00	0.08	8.60	18.00	1.62
	10月	1.15	25.50	0.08	8.10	17.50	1.12

脚注1：粗粒穀物はとうもろこし、マイロ、大麦、燕麦、ライ麦等の計で約80%がとうもろこしである。

脚注2：年度は穀物年度。地域・作物により異なる。例：アメリカ産とうもろこし、大豆：9月～8月。

脚注3：ウクライナ、ロシアは両国の合計。

# 躍進する世界の穀物生産/輸出大国ブラジルの現状と課題(3)

ブラジルは、その地理的・気候的立地の特異性から世界の中でも極めて多様な農産物を生産する農業大国であるが、今回は近年ブラジル農業生産の中核をなすようになりブラジルを世界の穀物生産/輸出大国に押し上げた大豆とコーンの拡大の歴史について整理したい。

- ①ブラジルが大豆生産拡大に乗り出した端緒は、前記述べたように1972年の南米アンチオビ不良と米国大豆不作による禁輸措置であるが、その結果「不毛の地」であったセラード開発が進み2000年以降急速に生産が拡大した。更にそれを加速させたのは中国の穀物需要拡大により「95%食糧自給」政策が行き詰まり、2013年「**油糧種子は不足分を輸入**」するという**食糧政策の大転換**を行い大豆の大量輸入に踏み切ったことである。
- ②このような背景のもとで、ブラジルの大豆生産は下記表に示した通り00/01⇒19/20の20年間で**40⇒125百万ト**と**何と3倍強の85百万ト増**という目覚ましい拡大を見せ米国を抜き世界一位の地位に躍り出た。同時に輸出数量は**15⇒79百万ト**と**5倍強の64百万トの伸び**を記録した。このブラジルの大豆生産/輸出の急激な拡大は、同期間の全世界の生産増162百万ト(176⇒328)の約半分、輸出増98百万ト(54⇒152)の65%を占め、急激に存在感を示すようになった。
- ③他方輸入国に目を転じれば、食糧政策転換をした中国が大豆輸入を急拡大させ同期間に76百万ト増(13⇒89)と**ほぼブラジルの増産分を吸収した形**になっている。同時に中国はこの間の世界大豆輸入増98百万トの約8割を吸収し、世界全体輸入量の約6割弱を占める特異な存在となっている。これはさながらブラジルが**中国の大豆生産農地に転用**されている構図にも見える。また、ある意味史上例を見ない**農業生産のパラダイムシフト**でもある。一方の比較では鉄鉱石輸入における中国のシェア約70%(10.5/15.1億ト2018年)という構図にも類似している。
- ④また大豆の商品特性は、その流通性が他の穀物と比べ極めて高いことである。因みに19/00年度で見ると生産量に対する**輸出比率は45%(152/338百万ト)**と海上貿易量を押上げる最大の要因になっている。逆に低いのは、地域性/ローカル性が強い**コムギ**(43/494百万ト)である。コムギは15%(166/1,113百万ト)とトータル輸出量は拡大しているが地場畜産とエタノールとの密着性が強く流通性は比較的低い。小麦は24%(183/764百万ト)と小麦食の世界的普及の結果その流通性は高い。大豆の流通性が高い要因は、①中国始め各国が**小麦/米等自国の食糧生産優先** ②ブラジル等生産余力のある**特定地域に生産が集中** ③世界的な食肉消費拡大等により**油脂/タンパク源**として需要増大等の3点であるが、その結果ブラジル/米国等の大生産地から中国/EU等への大陸間移動が活発化している。
- ⑤大豆同様、ブラジルのコーン生産量も2000年以降年を追うごとに拡大しており19/20年にはついに**1億トの大台を超え**、US/中国に次ぐ**世界第3位の生産国に飛躍**した。00/01⇒19/00年度の20年間の生産数量は、34⇒101百万トと**3倍増の67百万ト増加**、輸出はゼロから**一気に36百万ト**と一躍主要輸出国の一角に躍り出た格好である。またブラジルコーン生産の特徴は、大豆の裏作として栽培されていることと温暖な気候から一期作(収穫1-3月)と二期作(同6-7月)の2回収穫が可能なのがブラジルコーンの飛躍的拡大をもたらした大きな要因となっている。
- ⑥2000年以降のこのブラジル穀物生産/輸出拡大の結果も含め、世界全体の状況はどう変わったのか？まず00/01⇒19/20の20年間の大豆も含めた穀物生産量は**20.1⇒30.0億ト**と**ほぼ1.5倍の10億ト増**。その中で特にコーンは586⇒1,115百万トと**約2倍近い527百万ト増**と最大の数量増を見せ、大豆も176⇒336百万トと**ほぼ倍増の162百万ト増**とこの二つが全体の生産拡大をリードした。また小麦は表にもある通り579⇒764と**185百万ト増**(131%)、コムギは400⇒494と94百万ト増(24%)と底上げしている。一方輸出量は、同期間全体で**284⇒587百万ト**と**2倍を超える3億ト増加**し、海上貿易量の拡大をもたらした。品目別の増加率では**大豆281%**(54⇒152百万ト)、**コーン243%**(73⇒166)と際立っている。この穀物生産/輸出拡大の要因は、①この20年間の世界人口が**61.2⇒76.6億人**と約15億人(125%)増と②**食肉消費量が247⇒334百万ト**と約9千万ト(135%)増と大きく拡大したことがあげられる。
- ⑦このような中で、今後ブラジルの世界穀物市場における存在はどうなっていくのか？世界人口は2050年には90億人を超え、開発途上国の経済成長とともに肉食や穀物消費量の増加等も予測される中、**どこがその食料を支えるのか？**その可能性を持っている地域はどこなのか？などを考えた場合、まだ耕作地の開発余力のある**ブラジルの存在感は益々大きくなっていく可能性がある**。(続く)

【別表1】 世界主要国とブラジルの穀物生産 / 輸出の推移

出所： USDA World Agricultural Supply and Demand Estimates (単位：百万トン)

大豆		00/01	05/06	10/11	15/16	19/20	19-00
US	生産	75	84	91	107	97	+22
	輸出	27	24	43	46	48	+21
BRA	生産	40	59	72	100	125	+85
	輸出	15	26	33	57	79	+64
ARG	生産	28	41	50	59	52	+24
	輸出	7	10	11	12	8	+1
世界計	生産	176	224	261	320	338	+162
	輸出	54	66	98	130	152	+98

中国		00/01	05/06	10/11	15/16	19/20	19-00
輸入		13	27	57	81	89	+76
世界計	輸入	53	65	96	127	151	+98

コーン		00/01	05/06	10/11	15/16	19/20	19-00
US	生産	253	282	316	345	348	+95
	輸出	52	48	50	42	44	-8
中国	生産	105	134	168	225	261	+156
	輸出	6	6	-1	-3	-7	-13
BRA	生産	34	43	53	84	101	+67
	輸出	-	2	10	38	36	+36
ARG	生産	15	16	22	28	50	+35
	輸出		11	13	21	34	+34
UKR	生産	4	-	12	23	50	+46
	輸出	-	-	6	16	36	+36
世界計	生産	586	684	814	972	1,113	+527
	輸出	73	75	92	134	166	+93

コーン輸入国数量 TOP10 (19/20)	
EU	21、MEX 17、日本 16、韓国11、VNM 11
IRN	10、EGP 10、中国7、COL 6、DZA 5

小麦		00/01	05/06	10/11	15/16	19/20	19-00
US	生産	61	57	60	72	52	-9
	輸出	30	28	35	21	27	-3
中国	生産	102	97	115	130	134	+32
	輸出	-1	-2	-	-3	-4	
EU	生産	105	123	136	160	154	+49
	輸出	15	15	21	32	32	+17
IND	生産	76	72	81	87	104	+28
	輸出	1	1	-	-	-	
ロシア	生産	34	48	42	61	74	+40
	輸出	-	10	4	23	34	+34
世界計	生産	579	616	648	733	764	+185
	輸出	107	110	124	163	183	+76

小麦輸入国数量 TOP10 (19/20)	
EGY	13、IDN 11、TUR 11、PHL 7、DZA 7
BGD	7、BRA 7、日本 6、MAR5、NGA 5

その他の大豆主要輸入国 (19/20)	
EU	15、MEX 6、ARG 4、EGY 4、THA 4、日本 3